

ミステリ読書案内

2023. 2. 23 発行元

第450号 伊藤 剛

<https://mystery-dokuan.com>

中・高校生にお薦めの本その22

中学生、高校生にお薦めするミステリ本の紹介の22回目。今回も馴染みの作家を中心に考えてみた。「ライト文芸ミステリ」と違って、かなり以前の作品にも遡ることができるので本を選ぶ時に助かっている。

本の値上げが進みませんように…

このところ世の中は値上げが止まらない。食品やエネルギー関係などは毎日の生活に密着しているので、財布にもろに響いてくる。書籍関係は徐々にという感じである。ハードカバーの単行本は二千元に近づき、文庫本は千円に近づいてきている。新刊本は月々計算して間に合う範囲で購入しないと苦しくなってしまう現状。

子どもたちにとっても物価の値上がりは大きな問題だと思う。ゲー

ムソフトや玩具の値段はどうなったのだろうか。いろんな意味で本の購入費を圧迫しているのではないだろうかと思ってしまう。

本の価格は今ぐらいで限界だと思う。千円以上の文庫本では売れなくなってしまう。「教育費」の問題が政治的にも話題に上がる昨今だが、今の日本では子どもを育てることにお金を回さなければ駄目。保育士や教員の数が増えてほしいし、幼いころから本に触れる機会を作っていかなければ…。本の値段が上がリませんように。

谷瑞恵「思い出のとき修理します」

2012年集英社文庫。心温まる話が5編入った連作短編集。このシリーズは4冊出ている。当時は話題を集めよく売れた本。

都会の暮らしに疲れた美容師の明里。地方都市の「津雲神社通り商店街」にやってきた。かつて子どもの頃に少しだけの期間過ごした場所。その通りの片隅に「思い出の時…修理します」と書かれた奇妙なプレートを見つけるのだ。後で飯田時計店であることがわかる。その時計屋さんの青年・秀司と共に日常生活に関連した不思議な出来事の謎を解くストーリー。最初は黒い猫とオルゴールの関係。明里の抱えている過去の傷のようなものがゆっくりゆっくりと解きほぐされていく。

太田紫織「後宮の毒華」

12月に角川文庫から出た本。今流行の「後宮もの」を太田紫織が書くとは思わなかった。時は唐の時代。玄宗皇帝の後宮。楊貴妃だけが寵愛を受ける状態になった時、正一品・華妃の位にいた翠麗が自ら姿を消した。弟の高玉蘭は伯父の高力士に頼まれて女装して翠麗の身代わりとして後宮に入り込むことになった。ごく身近な女官だけしか身代わりであることを知らないの、玉蘭は正体が露見しないように懸命の努力を続ける。姉の行方の手掛かりを掴もうとするのだが、毒物疑惑が持ち上がる。そこに登場するのがドゥドゥという毒専門の妃。玉蘭とドゥドゥは手を携えて…。今後シリーズはどう展開していくのか。

青井夏海「スタジアム 虹の事件簿」

1994年に自費出版でMBC21という出版社から出た本。現在は創元推理文庫に収められている。その後認められて作品を書いている。

プロ野球球団の東海レインボーズのオーナー・虹森多佳子が探偵役の連作短編集。レインボーズは6年連続リーグ最下位中。客の入りもなかなか厳しい。でも今シーズンは…！ 多佳子はまったくの野球音痴。ストライクとボールの違いさえ…。でも謎を解くのはお手の物。第一話はスタンドに座った客のバックからお札が飛び出る話。どうやら誘拐事件が起きたらしい。犯人の行動を推理する。そして、第五話まで進むうちにレインボーズは…。

松原秀行「ミッシング・ガールズ レイの青春事件簿1」

2006年講談社

YA! ENTERTAINMENT シリーズの中の一冊。青い鳥文庫に入っている『パスワード』シリーズから派生した形で、本書の後『ビートルズ・サマー』『山頭火ウォーズ』が出て、番外編の『銀河寮ミステリー合宿』と続いた。最後に「つづく」と書いてあるのだが、その後の「つづく」は出ていない。

名探偵の野沢レイが天の川学園・高校2年生の時の出来事。現代アート研究会の三人の仲間と活動を展開する中で、生徒誘拐事件に巻き込まれていくストーリー。かつて美術部だった部室を現ア研が引き継いで、そこに残されていた「太陽の塔」の模型の中から暗号のようなものを発見するのが大きな手掛かりとなる。前半は現ア研のハチャメチャな活動ぶりを中心になって進むが、後半、暗号を見つけてからは緊迫した流れになる。連想のように手掛かりが繋がって、最後は大がかりな冒険の場面に。レイは高校生の時代から優れた推理力の持ち主だったことがわかる。シリーズの宿敵は最後に登場。